

編集者のことば

本センターは1977年4月に設置されたが、それ以降「震災予防に関する総合的研究プロジェクト・グループ」は常に活発な学際的研究活動を続け、その成果は『総合都市研究』第2号，“特集 震災予防”1978・3として刊行された。すなわち、本グループは、それ以前から実質的に共同研究活動を開始していた。以降、1982年からセンターの総合研究テーマ「東京を中心とする大都市の総合的研究（中期研究計画）における1つの研究グループとして1989年まで精力的な研究活動を展開してきた。

この号は「特集 都市の地震災害想定技法」として、上記の中期研究計画の一応のとりまとめとして編集した。執筆者の多くは、国や地方自治体の地震被害想定や東京都の「地震に関する地域危険度測定」調査などに参加し、地域（都市）防災行政に寄与してきた。そこでは、本センターでの基礎研究の成果が広く活用されてきたし、そのときとところにより新たな問題点が提起されたり、被害想定等の対象項目が年代の経過とともに広がり、それらに対応するための基礎研究が本グループで実施されてきた。

この号の発刊に当っては、多岐にわたる本グループの研究のうち、表記の特集号のタイトルに馴む論文で構成すること、それらの配列（順序）も全体としてストーリー性をもたせること、また、できるだけ平易な文章（言葉）でそれぞれが執筆されるよう努めた。すなわち、全体的に内容はきわめて実践的であり、かつごく最近の被害想定や地域危険度測定でとり上げられる項目のほぼ全てを包含している。また、被害想定や防災にむけての新しい提案もある。この特集が防災行政担当者、都市防災に関心をもつ様々な分野の研究者や実務家の方々に広く読んでいただけ、忌たんのないご批判を賜われれば幸甚です。

なお、このグループの成果をより平易にかつストーリー性をもたせ、都市研究叢書として出版すべく現在、準備を進めている。本グループは、それをもって発展的に解散し、平成2年度より「大都市の緊急防災システムの最適化とその効率的運用に関する総合的研究」なるテーマで、組織を拡大再編成し、新たな展開を企ろうとしている。関係者の積極的な協力を切望する。

1989年12月

望 月 利 男